

施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

長崎県総合計画における位置付け

作成年月日		平成30年10月26日	長崎県総合計画記載ページ	131	P
将来像	安心快適な暮らし広がる長崎県	施策主管所属	環境部自然環境課		
基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	課(室)長名	課長 田中 荘一		
施策名	(7) 人と自然が共生する地域づくり	施策関係所属(部局名課名)	環境部地域環境課		

1 施策の内容

<p>【取組の概要】</p> <p>長崎県を特徴づける自然や生きものを保全し、地域資源としての活用を図るとともに、多様なニーズに対応した自然体験情報の発信や豊かな自然とふれあえる空間づくりを通じて、人と自然が共生する地域づくりを進めます。</p>	<p>【めざす姿】</p> <p>生物多様性や豊かな自然環境が守られ、人々がそれを経済活動の資源・場所として活用し、自然とふれあう機会が確保されている。</p>
---	--

2 施策の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価																						
<input checked="" type="checkbox"/> A : 順調 <input type="checkbox"/> B : やや遅れている <input type="checkbox"/> C : 遅れている																						
<p><<これまでの成果>></p> <ul style="list-style-type: none"> ●保全地域等の保全事業や希少野生動植物の保護増殖等に取り組む民間団体等への支援及び県事業による自然環境保全対策工事等の実施により、生物多様性保全事業によって守られた希少野生動植物の種数の増加を図ることができた。 ●自然公園施設について、利用者増に対応するためのトイレの増設や老朽化が進んだ施設の再整備を行い、安全性及び利便性が向上した。 <p><<進捗状況に課題がみられる分野>></p> <ul style="list-style-type: none"> ●「対馬地域におけるシカの捕獲頭数」は、昨年度より約600頭多く、過去30年で最大の捕獲数となった。目標値より低かったのは、これまで継続的な捕獲圧が掛けられてきた効果や、シカの生息状況の変化等の要因が考えられるが、依然として高密度の状態が続いていることから今後とも生息状況の推移を注視するとともに、さらに捕獲を推進していく。 ●「自然公園利用者数」は、熊本地震(平成28年4月)の影響等により目標値に達していない状況が続いているが、確実に回復基調にある。また、今後も高い伸び率が期待されるインバウンド対策等の利用促進対策を継続的に図っていく必要がある。 	<p>生物多様性保全事業によって守られた希少野生動植物の種類</p> <table border="1"> <caption>希少野生動植物の種類 (種)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26 (基準年)</td> <td>-</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H26 (基準年)	-	10	H28	20	20	H29	25	25	H30	30	30	H31	35	35	H32	40	40
年度	目標値	実績値																				
H26 (基準年)	-	10																				
H28	20	20																				
H29	25	25																				
H30	30	30																				
H31	35	35																				
H32	40	40																				

3 施策の成果指標の進捗状況

指標	基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
生物多様性保全事業によって守られた希少野生動植物の種数	目標値①	/	20種	25種	30種	35種	40種 (H32年度)	希少野生動植物が生息・生育する対馬等において、生物多様性保全対策工事を実施し、目標を達成することができた。
	実績値②	10種 (H26年度)	20種	25種			進捗状況	
	②/①	/	100%	100%			順調	

4 新たな課題や社会情勢の変化等

●全国的にも外来生物の国内侵入が問題となっており、本県においても侵入や定着の事例が発生していることから、今後希少な野生動植物への影響も懸念されている。

●近年、自然公園の利用者数が増加している訪日外国人旅行者の受け入れ環境の整備が必要である。

<審議会等での意見>

●希少な野生生物の保護を図るため、計画的なモニタリング調査や希少種の捕獲・採取規制などの周知、希少種の生息・生育環境の保全を図る必要がある。



5 課題を踏まえた今後の対応方針

●今後も引き続き、希少種保護等のためのモニタリング調査を実施し、捕獲・採取禁止の地域指定とその周知を進めるとともに、希少種の生息・生育に影響を及ぼすおそれのある外来生物の把握や早期発見や防除のため、関係機関との情報共有や外来生物にかかる周知・啓発を進めていく。

●国が進める国立公園のインバウンド対策事業である「国立公園満喫プロジェクト」の本県への展開を進め、地域資源としての活用を推進する。

6 施策を推進する事業群の状況

事業群①「多様な主体による長崎の生物多様性の保全」

事業群評価調書 9-(7)-①② 参照

事業群②「野生鳥獣と共存した地域づくりの推進」

事業群評価調書 9-(7)-①② 参照

事業群③「豊かな自然とふれあえる、人にやさしい公園施設づくり」

事業群評価調書 9-(7)-③ 参照

事業群④「大村湾周辺地域の里海づくり」

事業群評価調書 9-(5)-②、9-(7)-④ 参照